

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895200117		
法人名	医療法人社団翌檜会		
事業所名	エルダービレッジグループホーム		
所在地	兵庫県神戸市西区樋谷町福谷882		
自己評価作成日	平成27年12月20日	評価結果市町村受理日	2016年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2016年 1月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれた静かな環境の中で、家庭的な共同生活を営み、日常生活リハビリを通じ喜怒哀楽を無くすことなく、人としての生活を送る事、笑顔で寄りそう支援を方針としてしています。日常の健康管理、身体状況の変化に於いても、職員、隣接する老健施設看護師、クリニック医師と医療連携し、いち早く対応し、入居者が安心して生活を送る事が出来る環境を提供している。家族来居時には、近々の生活、身体状況の報告、相談を行ない家族ニーズも参考し、より良い支援に繋げついでるようにコミュニケーションを図っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人の有床診療所と老人保健施設に隣接しており、医療との連携が利用者と家族に安心感をもたらしている。法人の看護師とケアマネが職員と一体となり、利用者に対して個別の支援を行っている。事業所の理念の他に、職員が相談の上、具体的なケアの年度目標と月間目標を定め、利用者寄り添いつつ、利用者の視点で物事を考えながら支援をしている。リビングにはゆったりとした空間が広がり、窓を開けると、近くの本木を訪れる野鳥のさえずりが聞こえる環境で、利用者は主体的に生活を楽しんでいる。月に一度は訪問する様、家族にお願いしており、家族に会った時、利用者の顔がほころぶ。自治会や婦人会との連携を密に行こうという計画があり、地域住民と触れ合う機会も増えてくると思われるので、事業所としての更なる活性化に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を理解した上で、職員間で話し合い年間業務目標、月間業務目標を作成し、毎朝復唱し意識付けを実施している。	法人の理念と共に、事業所としての年度目標を掲げている。今年度は、報・連・相を密にして、利用者に笑顔で接することを重点目標としている。毎日の申し送りで、ショートカンファレンスしながらヒアリハットについても話し合うなど、ケアのなかで理念を実践している。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は多くはないが、ボランティアの訪問、地域への買い物などの外出で交流している。	事業所が属する自治会はゴルフ場で分断されている。その上に、隣接する住宅地は事業所とは別の自治会に属しているために、地域住民と触れ合う機会が少ない。今後改善していく策を検討中である。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けてまでは出来ていないが、来訪者、ご家族様に対しては支援方法等、誠実にしている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人、事業所の運営状況を報告している。出席者よりアドバイスを頂き、話し合い内容を具体化できるよう努めている。	隔月に開催し、利用者、家族、地域包括支援センターが参加している。しかし、地域からの参加が得られていない。今後は、婦人会や民生委員へ参加を呼び掛けたいと思っている。家族からは、看取りに関する指針についての質問が多く、現在検討中である。	今後とも、地域からの参加を働きかけて頂きたい。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情については、担当者に連絡し助言、指導を頂いている。生活保護の方の対応についても相談している。	法人が行政との窓口になっている。事業所としては、現在生活保護を利用している利用者に関して、市の担当部署と連絡を取って情報交換を行っており、今後とも関係性を密にしたいと思っている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が理解しており、身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。	職員は、年に2回の研修で拘束排除の必要性を学んでおり、身体拘束排除のケアを目指している。玄関は夜間のみ施錠している。エレベーターの利用は終日自由であり、乗降時の安全は人感センサーで確認している。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内事業所と連携し、高齢者虐待防止、職業倫理等の研修会に参加し、職員のスキルアップを実施している。	理念である「尊敬と温かいまなざし」で、利用者に向かい合っている。又、「思いやりのある敬語をつかいましょう」と、職員が月間目標に掲げている。利用者への言葉の掛け方には特に注意を払っている。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利について、施設内に掲示し全ての方に観て頂ける様にしている。	今年度も制度についての研修は無かった。現在、成年後見制度を必要とする利用者はいない。管理者がキーパーソンである親族と情報を共有しながら支援をしている。	会議の時間を活用するなど、研修の機会をぜひ検討いただきたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を頂いている。	入居前の見学を薦めており、重要事項を説明して納得を得てから契約している。家族から質問が多い看取りに関しては、事業所で出来る範囲を説明し、利用者の状況を看ながらケースバイケースで対応するという方針を説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書、外部への苦情相談窓口の連絡先を施設内掲示板に掲示している。運営推進会議の議事録をご家族来所持に閲覧出来るようにしている。	家族会を半年毎に開催しており、要望に関しては管理者から説明をし、後日、全家族に内容を報告している。居室の日当たりが良くないという意見に応じて、窓辺に近い所の木を取り除いて改善した。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営状況の情報は、ミーティングを利用し職員へ伝達されている。職員の意見はリーダーミーティング時に管理者へ伝達されている。	フロアミーティングを毎月開催している。入浴予定表を作って利用者の入浴時間を確認し易くした。自立している利用者からの排泄報告を参考に、トイレへの声掛けをするなど、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者にて職員の状況把握を行い、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供、実践者研修の推奨と参加費用の全額施設負担を行っている。法人内研修への参加を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は西区グループホーム連絡会に参加し、相互の情報交換を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境の中での不安を軽減出来る様、密な声かけ、傾聴を行い安心確保、信頼関係づくりに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り家族に来所して頂くようお願いし、本人の状態等を説明し、安心して頂く様に努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き話し合いを行い、スタッフ間で支援内容を協議している。要望実現が難しい場合は、ご家族に説明、理解して頂き、他の社会資源を活用して頂くようにしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員との関係以上に、入居者同士の関係作りが出来るように支援している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの内容を説明し、要望を反映できるようにしている。家族との外出を優先的に考慮し計画を立案している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出は出来ないが、日々の関わりの中で、馴染みの場所や風景を回想できる支援に努めている。	馴染みの理美容室に通う利用者には、家族と一緒に支援をしている。殆どの家族が月に一度は来訪するので、その時を触れ合う機会にしている。友人の来訪も時々あるが、書道や音楽療法、ドッグセラピーなどで、新しい出会い作りを支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	複数での作業やリビングでの位置関係、レクレーションを通じて入居者同士の関係構築に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が個人的な面会を行っているが、施設からの支援は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向聞き取るように努め、職員間にて話し合い共有し、家族にも意見を求めている。	コミュニケーションが取り難い利用者に関しては、表情から読み取ったり、家族の想いを聴きながら把握している。利用者の担当職員を定め、その中で関係性を深めながら意向の把握に努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用状況、生活状況等を家族や事業所より情報を得ている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録はカルテ記載し、食事量、排泄、入浴、バイタルなど別紙にて記録、職員間で情報を共有、把握出来る様に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態把握、月1回のフロアミーティングに於いて、支援の在り方を話し合い現状を把握し、家族、各セクションに相談の上、支援計画に生かしている。	計画は担当職員が素案を作成し、看護師の助言を得てケアマネが作成する。モニタリングを3ヶ月毎に担当職員が行い、ケアマネが総合的な評価をしている。今後、利用者と家族の満足度欄も加える方向で、ケアマネは考えている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ショーとカンファレンスを実施し、短期間の支援計画にケア目標用紙を利用して、ケアプランに生かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対し、臨機応変に対応を行なっている。事務作業の手伝い、来客へのお茶出し等。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用までは至っていないが、コーラス、ドックセラピー、書道等のボランティアを毎月受け入れている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックにて、内科、整形外科の受診対応。歯科、皮膚科に於いては往診にて対応している。その他病院受診、検査については家族へ協力して頂いている。	これまでのかかりつけ医の受診を基本としているが、現在、納得のうえで協力医療機関を利用している人が多数となっている。他科受診の場合は、家族の意向で併設医療機関、又は往診を選択している。利用者の心身状態については、文書で家族に報告している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内連携施設看護師に相談し、処置や受診などの指示対応を受けている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院が速やかに出来る様、生活、本人の状況を書面にて提供。急変時は主治医からの紹介により入院が出来る体制にある。	入院時は管理者が出向き、利用者の経過観察等と併せ、今後の対応についても早めに医療関係者と話し合う場を設けている。利用者、家族の不安を無くし、治療に専念できるよう声かけにも努めている。退院後のリハビリや見守り強化に向け、柔軟な受け入れ環境を整備している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については家族の意向を重視し、話し合いながら個々の状況に合わせ、方向性を決めている。	今年度、看取りを行った。利用者、家族の思いに寄り添うとともに、家族の不安軽減に努めた。併設施設看護師との密な協力体制のもと、職員もチームとして取り組むことができ、この貴重な経験が、次にもつながる機会ともなった。職員は、定期的な研修で学んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応はマニュアルを作成し、マニュアルに準じて対応している。 年1回の心肺蘇生法(AED含)講習を全職員が実施している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害時の地域との協力体制について構築できていない。	年2回の定期訓練を、利用者も一緒に実施している。火元を想定した避難経路の確認、機器の取り扱いについても共有を図っている。新人及び入職時研修にて周知を図っている。今のところ、防災全般について具体的な地域との協力体制には至っていない。	運営推進会議等を通じて、訓練の見学依頼からでも、継続的に働きかけていただきたい。

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性やこだわりを重視し、自分の思いを言いやすい雰囲気作りや声かけを実施している。	利用者一人ひとりへの丁寧な観察に努め、認知症の正しい理解とともに、個々に応じた対応を行っている。会議で個々の利用者の適切なケアや対応について検討、共有している。居室ドアの開閉の確認、のれんの活用等も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を重視し、個人の意思を尊重出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向に沿うように努めている。行事等の参加を促しているが、無理強いないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人と一緒に選んで頂いている。理美容は訪問サービスにて、本人の好みに応じられる様対応している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の運搬、盛り付け、片付けまでそれぞれの能力に応じた形で支援している。定期的ではないが調理日、外食の機会を設けている。	併設施設より、調理済みの食事が届く。利用者も一緒に盛り付け、配膳、後片付けを自ら行うなど、職員からも声かけするようにしている。おやつを手作りするなど、利用者からのリクエストを反映することもある。昼食は職員も共に食し、会話を弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ、形体の変更、大きさを考え食べやすい形に対応している。水分については個々の嗜好に近いものに変更したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い、能力に合わせた支援、確認を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録、把握し、トイレでの排泄を重視している。 個々に合わせた製品を選択し、必要最小限の使用に努めている。	自分でトイレに行っている人もいるが、多数は職員が利用者の表情や様子を見て声かけしたり、さりげなく誘導している。座位保持を大事にし、トイレでの自立を勧めている。夜間、おむつ使用の人はいるが、睡眠を重視し、途中パット交換する人もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬以外の効果の期待できる飲み物や、提供時間を工夫している。 医師、看護師と相談しながら対応している。			
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週間入浴予定日を決めているが、本人のニーズに合わせて入浴できるようにしている。	週3日を目安に、曜日ごとに利用者の入浴日を予定し掲示しているが、入りたい時に入ってもらうことを優先している。利用者のその時の意向を大事に無理強いせず、気持ちよく入ってもらおう心がけている。職員とのおしゃべりも楽しみにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間の設定はせず、個々に合わせた対応をしている。リビングにはソファ、マッサージチェアを設置し、ゆっくりと過ごして頂けるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬辞典を常備し、個々に知識を学べるようにしている。新しく処方された薬の副作用についても調べ、看護師の協力も得て本人の状態変化にも注意を払っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事の手伝いは、個々の力に合わせた役割を考え、無理強いせず本人の状況に合わせて、楽しさや達成感が得られるように支援している。			
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出がスムーズに出来るように配慮している。 天候に合わせて、散歩、ドライブ、おやつ外出を実施している。	気候のいい時期は、施設周辺や近隣の公園に散歩に行っている。利用者からの要望だけでなく、こちらからもドライブに誘ったり、お茶を飲み声かけすることもある。家族来訪時に、一緒に夕食や外出する人もおり、家族の協力を働きかけてもいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持する事で安心される方には、少ない金額で個々に管理して頂いている。外出時など能力に応じ支払いをして頂いている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設の電話を使用して頂いたり、入所後も継続して携帯電話を使用して頂いている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室、表札等の表示は判りやすいように工夫している。 生活空間は季節を感じらるよう、季節に応じた空間づくりを行っている。	複数の食卓テーブル、ソファ等、個々に過ごせる場がある。中庭からの日差しにより廊下は明るく、掘りごたつのあるたたみスペースも備えられている。リビングの大きな窓からは、四季の移ろいが感じられ、利用者合作の手作り品が、さりげなく飾られている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、マッサージチェアを設置し、気兼ねなく自由に座って頂き、ゆっくりとくつろげる様にしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣向品、家族の写真を活用し、参じた頂き、本人の和める空間作りに努めている。	クローゼット、ベッド、洗面台が常設となっている。好みの椅子や飾り棚を置き、趣味の小物や本、写真を飾っている。小型の整理筆筒を置き、衣類を整理している。洗面台には、普段使いの化粧品等が置かれている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ、適宜掲示物を変えたり、工夫している。危険個所に於いては身体拘束にならないように簡易式センサー等を設置し、安全に努めている。		